

校庭の梅の花も満開となり、日増しに春の息吹が感じられる季節となりました。誇り高き352名の若楠が、新たな芽吹きの時を迎えました。

本日ここに、大阪府立四條畷高等学校第71回卒業証書授与式を挙げていたしまして、公私ともに忙しい中、大阪府教育庁ご代表様、四條畷市長様、四條畷市並びに大東市教育委員会各ご代表様、四條畷市立中学校の校長先生方、本校学校運営協議会、SSH運営指導委員会、並びに歴代校長先生、旧職員の皆様をはじめ、多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、高いところからではございますが、厚くお礼を申し上げます。また本校同窓会、並びにPTA役員の皆様方には、部活動や学校行事をはじめとする生徒たちの様々な活動に対し、物心両面にわたり、多大なるご支援とご尽力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

保護者の皆様、お子さまの晴れのご卒業、おめでとうでございます。高校時代は、長い人生のうちでも、心も体も大きく成長すると同時に、多感で不安定な時期とも言われています。しかし、保護者の皆様が熱心に育み、導いてこられた甲斐が実り、お子さまは、御覧のとおり、とても頼もしい若人に成長いたしました。皆様方の本日のお喜びは、ひとしおのものがあるかと拝察し、心からお祝い申し上げます。

71期生の皆さん、改めて卒業おめでとうでございます。皆さんの脳裏には、どのような思い出が去来しているのでしょうか。勉学のことでしょうか。青春のエネルギーをこよなく燃やした部活動のことでしょうか。文化祭や体育祭、台湾での修学旅行など学校行事のことでしょうか。そのいずれにおいても皆さんは、見事なまでに一生懸命でした。安易に妥協することを良しとせず、懸命に自らの可能性に挑戦する姿は、輝いていました。皆さんが手にした卒業証書には、一人ひとりのたゆまぬ努力があったことは、もちろんのことですが、深い愛情をもって見守ってくださったご家族をはじめ、時には厳しく、時には熱く、そして優しく接してくださった先生方、そしてともに喜び、ともに涙した仲間、その他多くの人たちの励ましや支えがあったことを思い起こしてください。

さて、社会は今、驚くべきスピードで変化しています。皆さんを待ち受ける時代は、かつてないほど人類の叡智を必要としています。広く世界を見れば、国と国との、あるいは民族と民族とのやむことない抗争。エネルギー問題、環境問題、難民問題をはじめとして、困難ではあるが解決の急がれる課題が山積しております。翻って我が国を見れば、政治や経済をはじめ、社会の様々な分野において多くの矛盾を抱え、従来の枠組みは、制度疲労を来し、新たなシステムの構築が求められています。そのような時代であるからこそ、時代を担うリーダーとなる、皆さんの活躍に大きな期待をしつつ、餞の言葉を贈ります。

2月22日に、小惑星探査機「はやぶさ2」が、小惑星リュウグウへの接地に成功し、リュウグウの試料を採取する運用を開始しました。「はやぶさ2」の運行には、スイングバイと呼ばれる、天体の運動と万有引力を利用して、運動ベクトルを変更する技術が用いられています。皆さんの中には、課題研究のテーマとして、このスイングバイを研究し、SSHの全国大会で発表してくれたグループがいますね。そのせいか、私には「はやぶさ2」が、とても身近のものに感じられます。リュウグウには、太陽系が生まれた頃の水や有機物が、今でも残っていると考えられています。このリュウグウの試料を持ち帰ることで、地球の水は、どこから来たのか、生命を構成する有機物は、どこでできたのか、惑星がどのように生まれたのかを調べることで、つまり生命誕生と太陽系誕生の秘密に迫ることが、「はやぶさ2」のミッションです。「はやぶさ」初号機は、小惑星イトカワからの帰還中にトラブルに見舞われましたが、JAXAのプロジェクトチームが、粘り強く制御を繰り返し、予定より3年遅れて、2010年6月にイトカワの試料を持ち帰りました。「はやぶさ2」がリュウグウへの接地に成功した時、JAXAのスタッフが「初号機とは違うのだよ。初号機とは！」と、エヴァンゲリオンとガンダムを合わせたようなコメントをされましたが、初号機との違いを活かして、「はやぶさ2」が、予定通り2020年末に、無事地球に帰還してくれることを期待しています。

宇宙へのアプローチには、こんな方法もあります。ドイツの数学者ヒルベルトが、1900年に、20世紀に解決されるべき数学上の23の問題を提起しました。そのほとんどは、解決されましたが、21世紀の現在もなお、未解決の問題もあります。その一つが第8問題、「リーマン予想」と呼ばれる問題です。1と自分自身しか約数を持たない自然数を素数といいます。2, 3, 5, 7, 11, 13, 17, 19, 23, 29, 31・・・と、素数が無限に存在することは、皆さんなら、証明できると思います（ヒントは背理法です）。無数に存在する素数がどのように分布しているのかは、極めて難しく、「リーマン予想」は、素数分布の規則性にかかわる予想の一つで、多くの数学者たちの英知と努力を持ってしても、まだ完全な解決には至っていません。しかし「リーマン予想」を解決しようとするプロセスにおいて、多くの重要な仮説や理論が生み出されました。そのうちの 하나가、素数の分布は、分子や原子よりもさらに小さい、素粒子の振る舞いや、宇宙の全体像と深いかかわりがあり、その間隔の謎が、宇宙と素粒子の世界を解き明かすカギを握っているかもしれないという仮説や理論です。「はやぶさ2」と「リーマン予想」という、全く違う2つの取組みが、宇宙の謎の解明という同じ目標に向かっていているというのは、興味深いことです。

さらに、この2つの取組みに共通することは、いずれも、試行錯誤、Trial and Errorを重ねながらもあきらめずに、問題を解決していること。失敗から、新たな課題を発見し、さらに歩みを進めていることです。

これまでの学習は、どちらかといえば、与えられた内容を覚える、あるいはあらかじめ用意されていた一つの正解を探すという受動的なものになりがちでしたが、これからは、与えられた問題の正解を見つけるだけでなく、何が問題かを発見する力が求められます。また物事には、いろいろな見方があり、簡単には割り切れない問題がたくさん存在します。迷いながらも、それらに辛抱強く立ち向かい、自分で確認し、自分で考えて判断しなければなりません。これからの変化の激しい時代に求められるのは、自分で課題を発見し、そして、自分で解決しようとする姿勢とその力です。

さらに、「はやぶさ2」と「リーマン予想」も、チームで取り組んだり、先行研究を活かしたりすることで、一人の力ではなく、多くの人とともに、問題を解決していることです。皆さんも、これまでは、学校という限られた空間での生活でしたが、これからは、より広い、様々な人たちとのつながりの中で、社会に貢献できる役割を担っていくことでしょう。そのためには、自分中心の考え方から、他者への配慮ができる人間になること、自分の考えを自分の言葉で分かりやすく表現し、また相手の立場に立って、その言葉をきちんと受け止め、理解する、双方向でのコミュニケーション力が必要です。

この二つの力こそが、私たち教職員が、皆さんに求めてきた力です。皆さんは、四條畷高校での取組みで、すでに、この力の何たるかを理解し、獲得されたと信じています。今後、さらにその力を磨いていくならば、必ずやこの社会で、この日本で、そして世界で、活躍できることでしょう。皆さんに、これからの日本と世界を託します。

保護者の皆様、立派に成長されましたお子さまのご卒業、改めて心からお祝い申し上げます。お預かりしておりました大切な大切なお子さまを、本日無事、お返しすることができ、教職員一同、これに勝る喜びはございません。この間、本校の教育活動に多大なご支援、ご協力、ご理解を賜り、誠にありがとうございました。

卒業生の皆さん、健康に留意され、それぞれの新たな目標に向かって精進、努力され、その精進、努力が花を咲かせ、実を結ぶことを、心から願っています。私たちも、皆さんに「四條畷高校出身です」と誇りを持って言ってもらえるよう、取り組んでいきますので、畷高のことを、いつまでも見守っててください。

かくて卒業生の皆さんの前途が洋々たるものとなり、幸多かれと祈念して、私の餞の言葉といたします。